令和8年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【常盤北小学校】

①	今年度の目標と学力向上策
重点的に育成する資質・能力	(1)児童が自ら決めた目標に向かって、トライアンドエラーを繰り返しながら粘り強く学びを推し進めていく力 (2)他者との関わりの中で児童が自らの学習を振り返り、自己の成長や学んだことを日常生活や今後の学習に生かす力
⇓	
実施する学力向上策【時期・頻度】	日常生活や学校行事等と関連付けて学習課題を設定し、児童が学習する目的や達成目標を明確に捉えることができるようにする。また、「指導の個別化」と「学習の個性化」の二つの側面から、児童が確実に資質・能力を身に付けたり、他者と力を高め合ったりすることのできるような指導計画を構成する。さらに、振り返りの際には、児童が学習の目的や目標に立ち返り、自己の成長や学習の効果を自覚できるよう、活動を工夫したり、教師が的確に働きかけたりする。 上記の学力向上策を踏まえた研究授業を、6月の指導訪問や2学期に予定している校内授業研究会で合計6本実施し、その教育効果を検証する。得られた成果と課題をもとに、次年度の年間指導計画にさらに工夫・改善を加える。

②	全国学力・学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	国語科・算数科のどちらの教科においても、平均正答数が県平均、全国平均を大きく上回り、全体としては学力が高い傾向にあることがわかった。一方で、正答数の分布をみると、両教科ともに児童間の差が見られ、正答数が比較的少ない児童も一定数いることが明らかとなった。以上の結果から、個々の児童の学習状況に応じた支援や授業改善について、引き続き検討していく必要があると考える。
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	上記の結果を踏まえ、出題された問題を基に児童の思考の流れやつまずきを全教職員で分析・検討したところ、国語科・算数科のどちらの教科においても、「問題や資料から情報を読み取り、その意味を理解し、既有の知識と結び付けて考える」ことに課題があると考えた。国語科では、図表で示された情報を関連付けて捉えたり、自分の言葉で表現したりすること、算数科では、数や式が表す意味や概念を理解し、問題場面や目的に応じて活用することに課題が見られた。また、本校の児童の実態を踏まえ、日本語の理解や活用について、個々の児童の状況に応じた支援や、それらの力を高めるための活動を工夫していく必要があると考える。

③	中間評価	
学力向上策の実施状況	評価(※)	6月の指導訪問において、学力向上策に基づき、「生活科」「特別活動（学級活動）」「特別の教科 道徳」の三部会で研究授業を実施し、協議会で手立ての有効性等を検討した。学級目標を振り返って今後の生活につなげたり、学習内容といじめ撲滅スローガンを関連付けたり、ワークシートやICTを活用しながら自分の考えを表現したりするなど、児童が学習の目的や目標を意識しながら学習に取り組む姿が見られた。また、日々の授業でも、教科横断的な単元の実践や、児童が学び方を選択できる教材の工夫など、目標とする資質・能力の育成に向けた取組が学校全体に広がっている。
	A	
⇓		
学力向上策の見直し	変更なし	

※評価　A 8割以上（達成）　B 6割以上（おおむね達成）　C 6割未満（あと一歩）

④	さいたま市学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	

⑤	年度末評価	
学力向上策の実施状況	評価(※)	
⇓		
今年度の成果と次年度の課題		

※評価　A 8割以上（達成）　B 6割以上（おおむね達成）　C 6割未満（あと一歩）